Googleマップ

閼伽井の清水（あかいしみず）

鶴岡市青龍寺字金峯1

〔管理者・保全団体〕金峯神社

ポイント

鶴岡市の南西、金峯山金峯神社中宮の社務所前に小さな祠があり、その傍らに清水がある。水源は無想の滝の上で、貯水して300mほど引き込み「閼伽井の清水」として提供されている。周囲は杉林に囲まれ静かな中に、たくさんの石碑、石像があり、お堂が立ち並ぶ。この水は枯れたことがなく、また、濁ったこともないと云う。駐車場も比較的近いので多くの人々がこの水を求めて訪れる。

アクセス

（北緯38.678833°、東経139.806056°）

鶴岡駅の東側の国道112号線を南進し、下山添地区のコンビニエンスストア手前の信号を右折し、西に入る。1.5㎞ほど進んで、山形自動車道の下をくぐり、県道349号線を越えた後、T字路を左折して青龍寺簡易郵便局前を通過し、南に200mほど進むと、金峯神社入口の赤い橋が右手に見える。右折し、その橋を渡り山の方向に2㎞ほど進むと鳥居が見え、その左側を道なりに進み、登り切ると中宮の広い駐車場に出る。そこからは徒歩で、社務所前の「閼伽井の清水」までは直ぐに到着する。

Googleマップ

岩清水（いわしみず）

鶴岡市湯田川

〔管理者・保全団体〕湯田川地区自治振興会

ポイント

庄内三名湯の一つである湯田川温泉の近くに岩清水八幡宮があり、その傍らの小さな祠から湧き出ているのが「岩清水」。この水は、平安時代後期にあった後三年の役に出陣した八幡太郎義家が、この地で矢尻をもって岩石を穿（うが）ち得られた名水とされている。

岩清水八幡宮は、京都の石清水男山八幡宮から分霊したとの由緒があり、また天保7年（1836年）の江戸時代には、庄内藩主が湯田川温泉に入湯する際に、この名水で茶をたてたとする記録が残る。

岩清水八幡宮

湯田川温泉街入口

アクセス

（北緯 38.695569°、東経 139.766076°）

日本海東北自動車道鶴岡西ICから国道7号線を鶴岡市内方面に2km程進み、矢馳交差点を湯田川方面に右折する。県道338号線を3.8km程南下し、国道345号線湯田川温泉口十字路を右折する。そこから400m程進んだ左側に「この先100m岩清水八幡宮」の標識がある。

国道345号線から岩清水八幡宮に入る道は未舗装で狭いので、湯田川温泉共同駐車場を利用し、徒歩で行くのがお勧め（約10分）。

大清水（おおしみず）

鶴岡市湯温海乙

〔管理者〕鶴岡市 〔保全団体〕外部委託業者

ポイント

鶴岡市の温海温泉街を東に抜け、蕎麦屋「大清水」の隣に小さな公園があり、奥の祠の下から清水が湧いている。温海岳の伏流水である。江戸時代後期に庄内藩士である安倍親任が記した「筆濃余理（ふでのあまり）」の中にもあり、昔から名水として親しまれた歴史を持つ湧水である。周囲は温海岳の急峻な山が迫り道路のすぐ下には温海川が流れている。

アクセス

（北緯38.613944°、東経139.614000°）

あつみ温泉IC出口の交差点を北に直進し、県道348号線のトンネルをくぐり、交番所の前の交差点を直進して温海温泉街に入る。温海川に沿って県道44号線を東に進み温泉街を抜けると、道路すぐ右側を温海川が流れる。更に100mほど進むと「手打ちそば大清水」がある。その東隣に公園があり「大清水」がある。

公園の前に、車が２台ほど駐車できる駐車場がある。

Googleマップ

ガッキの清水（しみず）

鶴岡市湯野浜

〔管理者・保全団体〕湯野浜地区自治会

ポイント

ガッキの清水は、鶴岡市内有数の海水浴場がある湯野浜温泉街にある、400年以上前から親しまれている湧水である。この湧水は、長年地域の飲用水や生活用水として利用され、現在も、農作業の休憩や夏に涼を取る場所として、多くの人々が利用している。また、観光地にもなっており、温泉街を散策しながら訪れることができる。呼び名の「ガッキ」とは地域の言葉で、段差がついていることを意味しており、水場の周りの地形から名付けられたとされている。

保全活動は、湯野浜自治会が定期的に点検と清掃を行い、近隣住民と共に年１回の大掃除をしている。また、観光地として利用するため、清潔な状態を保つようにしている。

湯野浜海岸

清掃活動

アクセス

（北緯38.778753°、東経139.752697°）

国道112号線を県道余目加茂線へ入り、北に進み、「ホテル亀や」の方向に右折する。湯野浜温泉足湯場を過ぎて、湯野浜郵便局前を通過し、直後の交差点を右折する。標識があるので、そのまま路地を進むと着く。

Googleマップ

加茂（かも） お不動様（ふどうさま）の清水（しみず）

鶴岡市加茂

〔管理者〕白蓮寺　〔保全団体〕加茂新屋敷町内会

ポイント

加茂地区の新屋敷にある「お不動様の清水」は、藤滝不動尊のお堂の右手から湧き出ている。江戸時代には街道の休憩所として利用され、旅人が清水でのどを潤していたと伝えられている。江戸時代に建立された藤滝不動尊は、古道の通り沿いにあり多くの人々の信仰を集めており、多数の石仏や記念碑が残る。

この地区では、お盆の三日間は夜明け前にこの清水を汲んで仏前に供える風習がある。また、この清水は「末期の清水」とも呼ばれ、死を迎える人が死の直前に「タマシ」となって清水を飲みに来ると云い伝えられている。

藤滝不動尊

加茂水族館

アクセス

（北緯 38.754571°、東経 139.737967°）

庄内観光物産館のある国道7号線から国道112号線大山街道を4.5km程進み、丁字路を加茂方面へ右折する。加茂坂トンネルを抜けて300m程進んだ左側に不動尊入口の看板があり、そこを入ると不動尊が見える。

郷清水（ごうしみず）

鶴岡市越沢

〔管理者・保全団体〕越沢自治会

ポイント

鶴岡市の温海地区から東に15㎞ほど入った越沢地区の山中にあり、摩耶連山の伏流水が棚田の最上部から湧出している。標高は350mほどである。水が湧いている沢と、その横に水底から湧く木枠の池があり、透明な水の中にサンショウウオが生息している。沢の湧き口にはステンレス製で「摩耶の銘水郷清水」の表示板がある。

周囲は山際に杉林があり、他方は「やまがたの棚田20選」に選定された棚田が連なる。越沢地区の街道沿いに「まやのやかた」があり、掲示板に案内図がある。

アクセス

（北緯38.554389°、東経139.708222°）

あつみ温泉ICを降り、信号機を東に入る。県道348号線を東に11㎞ほど進み、国道345号線との交差点を右折して南進する。1.8㎞ほど進み、左側の「こえさわ」の看板から地区内に入る。250mほど進み、「仮設」のバス停を左折し、「木野俣」方面に入る。途中いくつかの道標があり、標識に従い道なりに3㎞ほど進む。道は簡易舗装されているが、狭くすれ違いに苦労する。最後の「摩耶の銘水郷清水」の表示の前に駐車し、10mほど下に行くと湧水がある。

古和清水（こわしみず）

鶴岡市湯温海

Googleマップ

〔管理者〕あつみ観光協会　〔保全団体〕温海嶽の会、あつみ観光協会

ポイント

古和清水は、「やまがた百名山」の一つである温海岳の登山道途中にある。登山道脇から豊富に出ている水は、この水場より50mほど上部の山の斜面から湧き出ており、そこから下に流れ落ちている。温海岳のトレッキングには欠かすことの出来ない水であり、更に登山道を進むと山頂までには、見応えのある三つの滝や美しいブナ林を見ることができる癒しの空間がある。

温海岳は平安初期に羽黒山開基の黒珍が熊野権現を勧請し、人々の信仰を集める修験の山になったとされる。また、あつみ温泉は古くからの伝説として、傷ついた一羽の鶴が湧き出る湯で傷を癒しているのを発見したことに始まるとされており、川底より湧き出した温泉が海に流出したことから「温海」の名が生まれた。

温海岳入口

温海温泉

アクセス

（北緯38.619457°、東経139.620159°）

鶴岡市温海庁舎から県道44号線を南東に１km程進み、消防署温海分署がある交差点を左折して温海温泉方面に進む。1.6km程温泉街を進むと、温海岳登山入口の標識があり、そこから１km程進んだ場所にある。

地蔵清水（じぞうしみず）

鶴岡市砂川

〔管理者・保全団体〕地元有志

ポイント

地蔵信仰が篤い鶴岡市砂川地区にある地蔵堂の傍らの、苔むした岩の下から湧き出ている水場が「地蔵清水」である。

この水場は元々荒れ地となっていたが、40年ほど前に地蔵様が発見され、地元の有志達が整備に取り掛かった。喜捨（きしゃ）を募り、昭和63年9月に清水の傍に地蔵堂を建立し、御堂の中に地蔵様を祀った。周辺は木々に囲まれた清々しい環境にあり、訪れた参詣者は湧き出た水に親しんでいる。

荒沢ダムまで足を延ばせば、「タキタロウ館」などの自然を楽しめるスポットもある。

地蔵堂全景

タキタロウ館

アクセス

（北緯 38.574355°、東経 139.825412°）

鶴岡市朝日庁舎から県道44号線を荒沢ダム方面に南下し、4km程進むと寶勝庵というお寺の看板がある。そこを右折し、寶勝庵から100m程進んだ沢向こうに地蔵堂が見える。

車で容易に行ける場所であり、付近には駐車できるスペースがあり、湧水場所までは徒歩1分以内である。

重郎右衛門清水（じゅうろうえもんしみず）

鶴岡市大網

〔管理者〕遠藤重郎右衛門　〔保全団体〕遠藤重郎右衛門、関谷地区

ポイント

大網地区の「大日坊」先の関谷集落にある。昔から良質の水が大量に湧き出し、村人や旅人の喉を潤した。江戸時代には、庄内藩の酒井忠器が参勤交代で江戸へ向かう際、この水を献上し、「大変おいしい」とお褒めをいただいたとされている。

関谷集落はこの清水を中心に家屋が建てられたが、地滑り被害が相次ぎ、その多くは移転し現在の戸数になった。また、この地域は地下水を抜き取る地滑り対策工事により、他に数多くあった湧き水が減ってしまった。この清水は水量が減少してしまったが、現在でも冷たい水が湧き続けている。

アクセス

（北緯38.587507°、東経139.912370°）

道の駅「月山」から山形方面に１㎞程進み、大網方面に左折する。県道351号を2.5㎞程進むと関谷集落の標識がある。そこを右折し、さらに900ｍ程道なりに進むと「重郎右衛門清水」がある。

七窪地蔵清水（ななくぼじぞうしみず）

鶴岡市下川

〔管理者〕鶴岡市 〔保全団体〕七窪地蔵尊世話人会

ポイント

湯野浜温泉の北東に位置する下川七窪地区の松林に囲まれた地蔵尊に、七窪地蔵清水がある。かつての地主の名前から「与四郎清水」とも呼ばれるこの湧水は、旧羽州浜街道沿いにあり、行商人や旅人たちから親しまれていた。

この地蔵尊は、江戸後期の天保年間に起こった大飢饉で、亡くなられた人々の御霊を鎮めるために地蔵様を祀ったとされている。現在も毎年8月のお盆期間には、慰霊祭を執り行っている。

七窪地蔵尊

地蔵尊入口

アクセス

（北緯 38.789497°、東経 139.769155°）

庄内空港から県道33号線を西に進み、国道112号線を南に3.5kmほど進むと「県民の海･プール（スパール）」の標識があるY字路に着く。そこから左に100m進んだ場所にあり、側道に駐車できるスペースがある。

Googleマップ

柳清水（やなぎしみず）

鶴岡市田麦俣

〔管理者〕鶴岡市　〔保全団体〕田麦俣観光協会・鶴岡市・アルゴディア研究会

ポイント

柳清水は807年（大同二年）に弘法大師が開山した湯殿山の麓にある。この場所は、大師が昼食を摂り清水で喉を潤した際、箸として使った柳の小枝を泉のほとりに挿したところ、その小枝が柳の大木となったとする伝説がある。そして、街道を往来する旅人や湯殿山参詣者の喉を潤す泉の一つとして親しまれてきた。現在も田麦俣地区の重要な水源となっている。

六十里越街道はおよそ1200年前の昔から人の往来が絶えなかった。今では、自動車専用道路となった国道112号線にその役割を譲ってしまったが、湧水地点は新旧道路が交差する感慨深い場所である。

柳清水入口

アクセス

（北緯38.574321°、東経139.919407°）

国道112号線山形方面から湯殿山料金所入り口手前の100m地点にあり、湯殿山IC入口の緑色の高速道路標識が目印である。湧水はその裏、放流口は左側にある。自動車専用道路のすぐ脇なので注意が必要である。

Googleマップ

鷹清水（たかしみず）

酒田市生石

〔管理者・保全団体〕矢流川自治会

ポイント

鷹尾山から生石地区に流れ入る矢流川（やだれがわ）のほとりに、石で囲われた水場がある。傍には、酒田市の保存木となっている見事な大ケヤキがあり、そこに鷹の巣があったことから、鷹清水と呼ばれるようになった。

すぐ側に、家畜の守護仏とされる馬頭観音が祀られたお堂があり、馬で移動していた時代は、人と馬の休憩場所として欠かせない場所であった。以前は、大ケヤキの根もとから２か所湧き出ており、右側を人が飲み、左側は馬が飲んだという。現在は、左側の水場が無くなり、右側の１か所のみとなっている。

矢流川は、平安時代にあった戦いにおいて、「敵に放った“矢”が川に“流”れた」ことに由来するという。

湧出口

馬頭観音

アクセス（北緯38.926790°、東経139.943064°）

庄内町方面から国道345号線を北へ進み、東平田郵便局のある交差点を右折する。東平田コミュニティ防災センターを通り過ぎ、650m程直進する。鷹清水橋を越えたところにある側道に入るとある。

～令和３年度選定～ Googleマップ

御嶽神社の清水（みたけじんじゃ しみず）

酒田市升田

〔管理者・保全団体〕御嶽神社

ポイント

御嶽神社は、酒田市升田に鎮座している神社であり、その参拝者のために湧水を引き、手水として利用している。

この神社は、弘法大師が神のお告げによって発見したとされる「玉簾の滝」を御神体として創建された。神社境内周辺は古社の雰囲気が漂い、参道には目洗石、座禅石、ぽんぽん石など多くの伝承があり、歴史を感じることができる。

玉簾の滝は、高さ63mと直瀑での高さは県内随一であり、春の大型連休やお盆の時期には夜にライトアップされ、全国から人々が訪れている。また、プロジェクションマッピングも実施し、多くの人々に楽しんでもらえるよう計画している。

御嶽神社 手水舎

玉簾の滝

アクセス

（北緯38.997654°、東経140.052069°）

日向川に並行して走る県道366号線を東へ進み、下黒川橋を渡る。更に進み、弥生橋を渡ると升田集落へ入る。その先に「玉簾の滝駐車場」が見えてくるので、駐車場に車を停め、沢に沿って500m程歩くと御嶽神社に到着する。

Googleマップ

湯ノ澤霊泉（ゆのさわれいせん）

酒田市市条字八森2番の1

〔管理者〕酒田市　〔保全団体〕八幡地域観光物産事業実行委員会

ポイント

酒田市八幡（旧八幡町）、荒瀬川沿いの保養施設「八森温泉ゆりんこ」の西側の道路から下がった所にある。昭和55年に建てられた東屋があり、その中で３箇所から水が湧いている。石造りの椅子や木のベンチが設置されている。水源は山に少し入った所にあり、湧出した水を貯水して水場まで引いている。この水は「湯の澤霊泉」と呼ばれ不老不死の水として親しまれて神仏にも供えてきたという。周囲は杉林に囲まれ、付近には、荒瀬川の水中観察室や散策道路、八森自然公園スポーツ施設、保養施設「八森温泉ゆりんこ」等がある。

アクセス

（北緯38.966750°、東経139.945139°）

酒田市立鳥海八幡中学校の南にある国道345号線と国道344号線の交差点を東に800ｍほど進むと、Ｙ字路の先に「八森温泉ゆりんこ」が見えてくる。その交差点の右手前の山際の道路から一段低くなったところに「湯ノ澤霊泉」の東屋が見える。

駐車場は道路反対側に９台ほど置けるスペースがある。

Googleマップ

瑠璃の水

酒田市總光寺沢

〔管理者・保全団体〕總光寺

ポイント

酒田市松山地域の東方にある古刹「洞瀧山總光寺」の裏手にある「中の院」への参道途中にひっそりと湧き出ているのが瑠璃の水である。薬師瑠璃光如来に因み名付けられたこの水は、庄内地方に伝わる施餓鬼供養の際、参詣者の手水として利用されている。水場の後方には賽の河原があるため地蔵菩薩が祀られ、周囲は深山幽谷の景観となっており趣を感じさせる。

昭和6年に施餓鬼供養を復活させた際に、湧水のある水場も改めて整備した。そして、供養をする時に湧水で手を清め、中の院、森の山道場と巡り、故人や先祖を供養するという流れを總光寺第58世住職が築いた。

「中の院」への参道

總光寺山門

アクセス

（北緯 38.859696°、東経 139.970396°）

JR余目駅から県道117号余目松山線を東へ5km程進む。庄内橋を渡り、右折すると總光寺への案内標識が見える。そこを左折して東へ進み、總光寺を目指す。寺院右側にある側道を200m程進むと駐車場があり、石段の参道を少し登ったところに「瑠璃の水」がある。

市郎右衛門新田湧水（いちろうう　うえもんしんでんわきみず）

庄内町立谷沢

〔管理者・保全団体〕新田自治会

ポイント

環境省の「平成の名水百選」に選ばれた庄内町を流れる立谷沢川の流域にある湧水。虚空蔵岳の裾より湧き出る水を新田地区まで引いている。湧水は一年を通して尽きることが無く、以前は生活用水として利用されており、欠かすことのできない水であった。現在も水場では、農作業等の休憩時にのどを潤したり、涼を取る姿が見受けられる。

現在は６戸の集落である新田地区は、昔「市郎右衛門」という人物が鶴岡市から移住し、ここを開拓したことからその名前をとって「市郎右衛門新田」となった。湧水は、東北電力が立谷沢川第一発電所の社宅の水道に利用するために、虚空蔵岳の裾から昭和30年頃から引水し、その後、新田自治会で譲り受けた。

アクセス

（北緯38.667889°、東経140.002250°）

国道47号から県道45号を南下する。立谷沢郵便局を通過し、そこから３㎞程進むと県道344号と分岐する。その県道344号をさらに２㎞程進むと新田地区の標識がある。そこを左折して立谷沢川を渡り、道なりに進むと水場がある。

Googleマップ

牛渡川（荒川地区）

遊佐町直世

〔管理者〕山形県　〔保全団体〕箕輪鮭漁業生産組合

ポイント

ＪＲ羽越本線吹浦駅から1.5㎞ほどのところに、丸池様に隣接して流れる。牛渡川は約４㎞の清流であるが、流水のほとんどは、鳥海山からの湧き水であり、豊富な水量がある。山側の川岸から水が湧出している様子も見ることができる。梅花藻やカジカなどの希少動植物が生息する他、鮭も遡上する川であることから、毎年、秋から冬にかけて鮭を採捕し、人工孵化、放流が行われている。

なお、孵化場周辺のみを名水として選定した。

アクセス

（北緯39.072478°、東経139.892452°）

ＪＲ羽越本線吹浦駅から南東方向に1.5㎞ほど進むと箕輪鮭漁業生産組合の孵化場等がある。そこの駐車場に車を停め、徒歩で案内標識どおりに遊歩道を進む。孵化場の手前にある川（上流側）である。

※駐車は、組合事業の邪魔にならないよう御配慮ください。

大清水（おおしず）

遊佐町吹浦

〔管理者〕宿町二集落　〔保全団体〕遊佐町

ポイント

遊佐町吹浦地区、鳥海山大物忌神社（吹浦口之宮）の参道東側の山際にある道端、石垣の下から清冽な水が湧き出ている。湧き出た水がたまって大きな沼になっていたことが名前の由来となっている。歴史のある神社の門前にあり、多くの参拝者が行き交い、往時の賑わいを偲ばせる。

鳥海山大物忌神社は、６世紀には歴史に登場している。現在は、鳥海山山頂の御本殿、蕨岡口之宮と合わせて一つの神社となっている。歴代天皇をはじめとして、土地の有力者の庇護を受けてきた。

アクセス

（北緯39.072611°、東経139.880000°）

遊佐町内、国道345号線を北上し、ＪＲ吹浦駅の東口（正面）を目指す。吹浦地内で歩道橋の手前を右折し、踏切を越え、突き当りを右に、次のＴ字路を左折し、スーパーマーケットを通過し、最初の交差点を左折する。吹浦保育園、吹浦児童公園を通り過ぎると、道沿い右側に湧水が見えてくる。

落伏清水（おしょうしず）

遊佐町直世

〔管理者〕落伏集落　〔保全団体〕落伏集落・遊佐町

ポイント

ＪＲ吹浦駅の東、直世（すぐせ）地区にある古刹「永泉寺（ようせんじ）」を過ぎて、すぐ近くの道路沿いに湧き出ている清水である。雄大な鳥海山の麓、静かな集落内に水の流れる音が響いてくる。湧水は清流滝渕川に流れ出る。この川では秋になると鮭の遡上する姿を見ることができる。

「永泉寺」は、670年の歴史を持つ名刹で、パワースポットにもなっている。入口の杉の巨木、苔むした石段、奥の朱赤の山門、その中の仁王像、極彩色の格（ごう）天井など、幻想的で豪奢な景観に目を奪われる。清水とともに歴史に浸れる場所である。

アクセス

（北緯39.069221°、東経139.907702°）

遊佐町内、国道345号線を北上し、ＪＲ吹浦駅の東口（正面）を目指す。吹浦地内で歩道橋の手前を右折し、踏切を越え、突き当りを右に、次のＴ字路を左折し東に向かって進む。県道371号線に合流する交差点を左折する。永泉寺の標識に従って、永泉寺を目指す。永泉寺のすぐ先に湧水がある。

釜磯海岸（かまいそかいがん）

遊佐町吹浦

〔管理者〕山形県 〔保全団体〕吹浦地区まちづくり協議会

ポイント

ＪＲ羽越本線吹浦駅から沿岸部を通る国道345号線を約１㎞北上した所にある。７月から８月にかけては海水浴場として、大勢の人が訪れる場所でもある。砂浜の所々から、10度前後の冷たい水が湧き出し、珍しい光景なので手を入れて楽しむ人達もいる。水は鳥海山の伏流水であり、砂浜の他に海岸の岩場からも湧き出ている。釜磯海岸の湧水は、2016年に「鳥海山・飛島ジオパーク」として日本ジオパークに認定された。

アクセス

（北緯39.080055°、東経139.872416°）

国道７号線沿いの道の駅「鳥海ふらっと」から北に100ｍほど進み、国道345号線に左折し海岸沿いに約1.5㎞進むと釜磯海岸の案内標識が見えてくる。この標識から左折し、中へ進むと釜磯海岸の駐車場がある。約20台の駐車が可能である。駐車場には、「鳥海山・飛島ジオパーク」の案内看板がある。

Googleマップ

神泉の水（かみこみず）

遊佐町吹浦字女鹿

〔管理者・保全団体〕女鹿集落

ポイント

遊佐町から国道７号線を北に進んだ女鹿地区の住宅街の中に水場がある。水源は羽越本線の線路を越して東に500ｍほどの所である。

石造りの洗い場が６つに区切られており「飲料」、「米研ぎ」、「冷やし」、「野菜海藻洗い」、「洗濯」、「オムツの洗濯」まで分かれている。湧水がさまざまな用途に使われている。

濁ったことはないが、季節により湧水量が変化する。この地区の人々の生活用水になっており、水を中心に地区の方々が集まりコミュニケーションをとっている。坂を50ｍほど上った所に神社があり、横には津波避難の公園があって日本海の眺望が開けている。

アクセス（北緯39.105000°、東経139.879111°）

遊佐町から国道７号線を北に進み、国道345号線との交差点を右折して女鹿地区に入る。600ｍほど進み、一番低いあたりまで下ると右側に水場があり、「神泉の水」がある。

付近に駐車する場所がないので、住宅の方々の迷惑にならないよう注意が必要である。

光月堂の水（こうげつどう みず）

遊佐町遊佐

〔管理者〕金子満明　〔保全団体〕遊佐町

ポイント

この湧水は、JR遊佐駅東側の通称「元町」にある老舗菓子店「光月堂」の壁際にある（個人所有の湧水）。獅子威しと石造りの水受けに流れ落ちるさまは、日本庭園を想起させる。周辺には、歴史的・文化的に貴重な施設が数多くあり、街並みとマッチしている。湧水は、町の中心に位置し、通りがかりの人が喉を潤す憩いの場となっている。町内には多くの湧水が湧き、これらを見てまわる「まちめぐり」ができる。

アクセス

（北緯39.019348°、東経139.908004°）

遊佐町内、JR遊佐駅の東口から駅前の通り（県道208号線）を北東に向かう。100mほど進んだところの交差点を左折し、北に向かって更に350mほど進むと、右手に菓子店「光月堂」が見えてくる。店舗入口右側に湧水がある。駐車は、店舗左手の数台分のスペースを利用する。

※都合により、ただいまご利用いただけなくなっています。（令和6年10月現在）

深山神社（しんざんじんじゃ）

遊佐町遊佐

〔管理者・保全団体〕六日町集落

ポイント

ＪＲ遊佐駅から北東へ600m程進んだ月光川の河畔に、深山権現が鎮座している深山神社がある。この神社は、周辺集落の鎮守として崇拝されており、境内の３箇所から良質な水が湧き出ている。神社の手水舎として設けられており、その手水に使用されている湧水である。また、境内の樹齢600年の大欅群は、遊佐町有形文化財に指定されており見事な景観を形成している。

深山神社は、寛永時代に五穀豊穣万民安堵を祈願し建立され、周辺集落の鎮守として崇拝されてきた。大山祇神を祀り、毎年５月１日の例大祭には神輿巡業を行い、また祭りや神事にはお頭舞を奉納する。社殿格天井の画は名作を残し、境内の大欅群と多くの石碑とともに古い歴史と情緒を物語っている。

深山神社入口

手水舎

アクセス

（北緯39.019780°、東経139.909719°）

遊佐町役場から国道345号線を北に600m程進み、月光川手前の出光ガソリンスタンドを右折する。小路を進むと深山神社の石碑が右手に立っている。その奥に深山神社の手水舎があり、向側には駐車場がある。

Googleマップ

滝の水（たきのみず）

遊佐町吹浦

〔管理者・保全団体〕滝ノ浦地区

ポイント

ＪＲ羽越本線女鹿駅の南200mほどのところの遊佐町滝ノ浦地区の中にある大鳥神社境内で滝のように流れ落ちる湧水である。鳥海山の伏流水で、この地区には他にも湧水があるが、中でも最大の湧水がこの滝の水で、集落の名前「滝ノ浦」の由来となったと言われている。

この地区では、古くから飲用や洗濯等の生活用水として使われてきた湧水である。

アクセス

（北緯39.097035°、東経139.880509°）

国道７号線沿いの道の駅「鳥海ふらっと」から北に100mほど進み、国道345号線に左折し分岐点から５㎞ほど進むと、道路右側（東側）に滝ノ浦集落がある。駐車場はなく、国道345号線からの通路も狭いので、集落付近の国道沿いの駐車帯に車を停め、徒歩で100mほどのところに大鳥神社がある。

鳥海三神の水（ちょうかいさんしんのみず）

遊佐町吉出金俣239-5

Googleマップ

〔管理者〕遊佐町　〔保全団体〕三ノ俣婦人会

ポイント

遊佐町から月光川に沿って上り、三ノ俣集落の農林漁業体験実習館「さんゆう」のすぐ前にある。近くに車を置けるので多くの人々がここの水を求めて訪れる。水源は100mほど上にあり、「さんゆう」入口のコンクリート桝に貯めて、そこから水を引き込んでおり、７箇所から冷たい水が勢いよく出ている。周囲は丘陵地になっており、夏は畑、冬は小さなスキー場になっている。また、天候が良いと遙かに日本海が光って見渡せる。この地区は湧水が非常に豊富で、道路の側溝にも清浄な水が激しく流れている。

アクセス

（北緯39.039389°、東経139.994389°）

遊佐町役場付近から月光川を右手に見ながら県道60号線を東に４㎞ほど上ると、左側に「三ノ俣　金俣方面」という案内板があり、そこを右折して、更に300mほど進むと同様の案内板があり、左折して道なりに進み、金俣二組公民館を過ぎ、右折する。月光川ダムに架かる赤い橋を渡り、更に1.3㎞ほど進むと、三ノ俣公民館があり、前を過ぎしばらく進むとＴ字路がある。右折すると「さんゆう」が見え、道路側に水場がある。

胴腹滝（どうはらのたき）

遊佐町吉出

〔管理者〕遊佐町 〔保全団体〕胴腹滝周辺環境保全協議会

ポイント

遊佐駅から東に7.5㎞ほど東の欝蒼とした杉林の奥に、社を挟んで２つの滝がある。山の斜面の途中から突然多量の湧水が２箇所から流れ出ている。周囲は、流れの中に苔むした石が多数あり、数々の石仏が幽玄で神秘的な雰囲気を醸し出している。案内板には、体に良い水であり安産の神としても崇められていると言う記載がある。山の胴腹から水が出ていることからこの名が付いている。

駐車場から胴腹滝までは林の中を５分ほど歩くが、杉林を進むと滝の音が聞こえる。山形県里山環境保全地域第１号に指定された場所でもある。地元の人は、左右の滝で水質が違い、「コーヒーに合う」「緑茶に合う」と言っている。

アクセス

（北緯39.040750°、東経139.973389°）

遊佐町役場付近から月光川に沿って県道60号線を７㎞ほど上り、内水面水産センターを過ぎて400ｍほど進むと、左側に大型車が５台ほど駐車できる駐車場がある。その先の「胴腹滝　里山環境保全地域」の案内板から林の中を右方向に100ｍほど入ると「胴腹滝」が見える。

丸池様（まるいけさま）

遊佐町直世

〔管理者〕鳥海山大物忌神社　〔保全団体〕NPO法人遊佐鳥海観光協会

ポイント

ＪＲ羽越本線吹浦駅から1.5㎞ほどのところ、牛渡川沿いに直径約20m、水深約3.5mの池がある。池そのものが丸池神社の御神体であり、一般に「丸池様」と称され崇敬されてきた。底から湧き出る湧水のみを水源としているために非常に透明度が高く、水温も低いことから水中の倒木さえもなかなか朽ち果てずに残っている。また、池の水は瑠璃色で非常に神秘的である。遊佐町の天然記念物にも指定されている。

アクセス

（北緯39.072765°、東経139.891538°）

ＪＲ羽越本線吹浦駅から南東方向に1.5㎞ほど進むと箕輪鮭漁業生産組合の孵化場等がある。そこの駐車場に車を停め、徒歩で案内標識どおりに遊歩道を進む。石橋を渡り少し進んだ先で右に曲がると丸池様がある。

※駐車は、組合事業の邪魔にならないよう御配慮ください。

丸勝の水（まるかつのみず）

遊佐町遊佐

〔管理者〕阿部康雄　〔保全団体〕遊佐町

ポイント

この湧水は、一面に広がる庄内平野の水田の中、鳥海山（日本百名山）を背に、金物店の店先にある（個人所有の湧水）。湧出口は、石造りの水受けに段々と流れ落ちるようにしつらえられており、遊佐町にある「一ノ滝・二ノ滝・三ノ滝」をモチーフにしている。水は冷たく、勢いよく湧き出ている。店の裏手には鮭の遡上が見られる月光川が流れている。近くには、映画「おくりびと」のロケ地にもなった月光川河川公園がある。町内には多くの湧水が湧き、これらを見てまわる「まちめぐり」ができる。

アクセス

（北緯39.015603°、東経139.916282°）

遊佐町内、JR遊佐駅の東口から駅前の通り（県道208号線）を東に向かう。道なりに国道345号線、県道60号線と進む。駅前から700mほど進むと左手に丸勝金物店（倉庫）が見えてくる。その敷地の南東角にある。駐車の際は月光川河川公園等を利用するとよい。

山ノ神の水

遊佐町野沢

〔管理者・保全団体〕野沢山郷組合

ポイント

JR遊佐駅から北東に位置する高瀬峡の入口に、山ノ神が祀られた小さな祠がある。そこから少し進んだ岩場より、静かに湧き出ているのが「山ノ神の水」である。山ノ神は、稲作における水の守り神として信仰を集めていたとされる。また、水場のある高瀬峡は、鳥海山の麓にあり、山の伏流水や雪解けによりできた雄大な滝や渓流を見ることができ、森林浴も楽しめる。

高瀬峡は、鳥海山の長坂道登山口に繋がる渓谷であり、古くから劔龍神社の修験者が行を積んだ霊場であったとされている。また、高瀬峡大滝付近には、お不動様が祀られている祠があったとされており、その祠を高瀬峡の入口付近に移し、地域の人々や高瀬峡を訪れる人がお参りしやすいようにしたとされている。

高瀬峡案内板

高瀬峡大滝

アクセス

（北緯39.059321°、東経139.965971°）

JR遊佐駅から東に１km程進み、庄内こばえちゃラインから県道60号線を「高瀬峡」方面へ進む。途中、「しらい自然館」から500m程北に進んだところに高瀬峡林道入口があり、そこから２km程進んだ場所にある。

Googleマップ

わだやの水（みず）

遊佐町吉出

〔管理者・保全団体〕わだや

ポイント

遊佐町の中心部にある古民家カフェ「わだや」の敷地内にある。水量は豊富で１年を通して変わらずに湧いている。カフェ店主が、訪れたお客様に少しでも湧水に触れ合ってもらえるように、店内入口は本来の正面玄関ではなく、あえて湧水のそばを通るように考えられている。古民家ならではの落ち着いた雰囲気の中、ゆったりとした時を過ごすことが出来る。

昭和24年築の古民家をリノベーションして、営業をしている店舗の自噴井戸である。店は草木染めのワークショップなど、幅広く利用されている。

アクセス

（北緯39.021265°、東経139.909052°）

遊佐町役場から北へ600m程進み、月光川に架かる赤い橋「月光橋」を渡って直ぐ左折する。そこの北西角に古民家カフェ「わだや」がある。店舗脇には専用駐車場がある。